

## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	九州大学	整理番号	J03
プログラム名称	分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成		
プログラム責任者	高松 洋	プログラム コーディネーター	安達 千波矢

### ◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

#### [総括評価]

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

#### [コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、当初からの懸案である「分子システムデバイス科学」の内容の明確化が図られつつあることは評価できる。またこの点も含め、有効と思われる様々な取組に挑戦し、その成果や課題、学生からの要望に対して迅速に対応していることについても評価できる。ただし、所属研究室での指導と本プログラムでの指導が二重負担となっていると考える学生や、所属研究室での専門的研究で業績を上げられるかを不安に思っている学生が一定の割合で存在しており、本プログラムが過度な負担になっていないかを継続的に確認する必要がある。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、1期生が成長していることや、2期生以降の学生が本プログラムに対する目的意識をしっかりと持ち、目標を定めて積極的に取り組んでいる様子などからも十分期待できる。またグループリサーチプロポーザル（GRP）というグループ学習も特徴的であり、評価できる。一方で、5年間固定したメンバーによってGRPを実施することについては、リーダー育成の観点から見ると、多くのグループを経験することによりグループ内の様々な関係性、役割を経験できること、学生の研究に対する興味が増えることなどを考えると、注意が必要である。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、プログラム担当者が本プログラムに対し非常に大きなエフォートをかけており、また参画企業によるインターンシップの受入、短期・中期の海外留学制度などが整備されており、評価できる。

優秀な学生の獲得については、他大学出身の学生が約3分の1いること、また2期生以降の学生の意識が当初から高く、募集時の意識付けが出来ていたことは評価できる。一方で、指導教員との密接な相談の結果に基づき優秀な学生のみを受験させているため、これまで応募者数と合格者数が同一となっているが、選考基準を明確にした上でよりオープンな受入方式をとり、学生の多様化を図るよう改善が必要である。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、研究企画発表、分子システムデバイス演習（LP総合試験）、海外研究機関での研究、新しい発想・アイデアに基づいたテーマ設定なども含め、厳正な学位論文の審査体制となっており、評価できる。

事業の定着・発展については、企業連携による海外留学の支援など、リーディングプログラムの定着、展開を大学として考えており、評価できる。